

食料価格と農業投入コストの高騰による食料安全保障上のリスクを指摘

FAO「食料アウトルック」、2022年の生乳生産量を1.0%増加と予測、乳製品貿易量は0.4%減少に

国連食糧農業機関(FAO)は、世界の農産物需給などの概況を見通す「食料アウトルック(Food Outlook)」報告書を毎年2回公表している。6月9日に公表された最新号では、2022年の世界の食料貿易額は過去最高となることを予測し、これは取引量の増加よりも、取引価格と輸送費の上昇に起因している。乳・乳製品の市場動向として、2022年の世界の生乳生産量は2021年比1.0%増の9億3700万トンに達すると予測し、アジアと北米を中心に生産量の拡大が見込まれる一方、欧州連合(EU)、オセアニアでは低下を予想している。また世界の乳製品貿易量は、2022年には2021年の高水準から0.4%減少の約8800万トン(生乳換算)になると予測している。これはウクライナ紛争、景気後退、消費者の購買力低下による一部地域の輸入減少に起因するが、中国やその他のアジア地域の輸入増加で埋め合わせされるとしている。報告書のうち乳・乳製品の市場動向とニュースリリースの概要を以下に紹介する。

【食料アウトルック】(*1)

乳・乳製品の市場動向

2022年の世界の生乳生産量は、2021年比1.0%増の9億3700万トンに達すると予測され、5年連続の成長鈍化となる(表1)。今年の世界生産量拡大の主役はアジアの生乳生産で、引き続きインドとパキスタンでの乳牛頭数の増加と集乳効率の向上、中国での大規模牧場の生産量増加が牽引している。米国、中米・カリブ海地

域では、個体乳量の増加により生乳生産量は緩やかに増加する可能性があるが、穀物価格の高騰により酪農家の利益率が低下し、生産意欲が低下することにより相殺されるであろう。一方、欧州連合(EU)、オセアニア、南米では、乳牛頭数の減少、飼料コストの上昇、熟練労働者の不足、牧草の質の低下などにより、生乳生産量の低下が予測される。

表1. 世界の乳・乳製品市場の概観(*1)

世界総量	2020年	2021年 (推定)	2022年 (予測)	増減(%): 2021年/ 2020年
総生乳生産量(百万t)	915.5	927.8	937.3	1.0
総貿易量(生乳換算百万t) ¹	86.6	88.1	87.8	-0.4
1人当たり消費量				
世界(kg/年)	117.4	117.8	117.8	0.0
貿易のシェア(%)	9.5	9.5	9.4	-1.4
FAO 乳製品価格指数 (2014~2016年=100)	2020年	2021年	2022年 1~5月	増減(%): 2022年1~5月 /2021年1~5 月
	102	119	142	21.7

世界の乳製品貿易量は、2022年には2021年の高水準から0.4%減少の約8800万トン(生乳換算)になると予測される。これは、ウクライナ紛争、景気後退、消費者の購買力低下により、ウクライナ、スリランカ、ロシア連邦、ナイジェリア、ブラジルなどによる輸入の減少が見込まれることに起因している。これらの減少は、中国や、インドネシア、タイ、メキシコによる輸入量の増加で埋め合わせされ、グレートブリテン及び北アイ

erland連合王国(英国)、アルジェリア、フィリピン、サウジアラビアでは輸入の回復が予想される。輸出面では、ニュージーランドとオーストラリアが主要輸出国の中で最も大幅な販売減少を記録すると予想される。これは、主に生乳生産量の減少に起因する輸出可能な供給の逼迫を反映したものである。これらの減少は、EU、イラン・イスラム共和国、トルコ、英国、米国からの輸出の増加によって補われると思われる。

表2. 乳製品の国際価格およびFAO乳製品価格指数(*1)

期間	国際価格 (米ドル/t)				FAO乳製品価格 指数 (2014~2016 年=100)
	バター ¹	脱脂粉乳 ²	全粉乳 ³	CHEDDAR チーズ ⁴	
年次(1~12月)					
2011年	5 023	3 408	3 962	4 380	130
2012年	3 740	3 063	3 336	3 877	112
2013年	4 784	4 148	4 730	4 563	141
2014年	4 278	3 606	3 854	4 542	130
2015年	3 306	2 089	2 537	3 076	87
2016年	3 473	1 986	2 481	2 807	83
2017年	5 641	2 011	3 163	3 664	108
2018年	5 587	1 834	3 060	3 736	107
2019年	4 443	2 440	3 186	3 435	103
2020年	3 844	2 606	3 041	3 506	102
2021年	4 995	3 181	3 855	3 816	119
月次					
2021年5月	5 003	3 240	4 061	3 840	121
2021年6月	4 848	3 228	3 993	3 829	120
2021年7月	4 624	3 048	3 868	3 792	117
2021年8月	4 651	2 985	3 687	3 846	116
2021年9月	4 834	3 124	3 731	3 861	118
2021年10月	5 222	3 314	3 887	3 854	121
2021年11月	5 769	3 524	4 067	3 869	126
2021年12月	6 072	3 681	4 169	3 892	129
2022年1月	6 326	3 859	4 243	3 976	133
2022年2月	6 634	4 097	4 604	4 246	142
2022年3月	6 923	4 370	4 869	4 249	146
2022年4月	7 223	4 482	4 725	4 251	147
2022年5月	6 922	4 233	4 389	4 221	142

¹バター:乳脂肪 82%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

²脱脂粉乳:乳脂肪 1.25%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

³全脂粉乳:乳脂肪 26%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

⁴CHEDDARチーズ、最大水分 39%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

注:FAO乳製品価格指数は、国際的に取引されているEUとオセアニアの代表的な乳製品の貿易加重平均から算出される。

2021年6月から3ヶ月間の短い期間を除いて、2020年半ば以降、乳製品の国際価格は上昇した(表2)。これは、世界の輸入需要が世界の主要生産地域からの輸出可能な供給を上回ったためである。FAO乳製品価格指数は2022年4月に8年ぶりの高値を付けたが、翌月には世界的な購買意欲の低下を反映してゆるやかに後退した。

【ニュースリリース】(*2)

食料価格と農業投入コストの高騰による食料安全保障上のリスクを指摘

今回の報告書によると、世界の食料輸入額は1兆8000億米ドルの新記録を達成する見通しであるが、予想される増加分の大部分は数量よりも価格と輸送費の上昇に起因している。

FAOは、「心配なことに、多くの弱い国々は、より多く支払ってもより少ない食料しか得られなくなっている」とこの新しい「食料アウトルック」の中で述べている。

FAOは、世界の食料輸入額が2021年から510億米ドル増加するが、そのうち490億米ドルは価格上昇分であると予測している。後発開発途上国(LDCs)は、今年の食料輸入額の5%縮小が予想され、サハラ以南のアフリカと食料純輸入途上国の諸国は、輸入量の減少にもかかわらず、そのための総費用は増加すると予想している。

これらは食料安全保障の観点から憂慮すべき兆候であり、輸入者が国際コストの上昇を賄うことが困難になることを示し、価格上昇に対する対応が出来なくなる可能性があるため、報告書は指摘している。また、FAOの最新の予測では、コストの高騰、天候に関する懸念、ウクライナ紛争に起因する市場の不確実性の高まりを考慮すると、食料市場のねじれが強くなり、食料輸入額が過去最高を更新する可能性が高いと述べ、

FAOの食料安全保障を守るための戦略として、食料輸入に最も依存している低所得国に支払いを支援するための食料輸入融資制度を提案している。

2022年に到達することが予想される輸入額の上昇の最大の要因は動物性脂肪及び植物油であるが、先進国では穀類がそれに続く。開発途上地域は全体として穀物、油糧種子、食肉の輸入量を減らしており、これは価格上昇をまかなう力がないことを示している。

重要ポイント

- 2022年の世界の主要穀物の生産量は4年ぶりに減少し、世界の利用量も20年ぶりに減少すると予測される。しかし、小麦、粗粒穀物、米の飼料用途の減少が予測されるため、人間が直接食する穀物使用量には影響がないと予測される。世界の小麦在庫量は、主に中国、ロシア連邦、ウクライナの在庫の積み増しが予測されるため、年間では僅かに増加すると見込まれる。トウモロコシの生産量と利用量は、ブラジルと米国におけるエタノール生産の増加、中国における工業用澱粉の生産に伴い、新記録に達すると予測される。
- 2022年の植物油の世界の消費量は、需要の低下が予測されるにもかかわらず、生産量を上回ると予測される。
- 2022年の世界の食肉生産量は、アルゼンチン、EU、米国で減少する一方、中国では2018年のアフリカ豚熱ウイルス拡大前の水準を上回って豚肉生産が8%増加し、世界の生産量は1.4%拡大すると予測される。
- 2022年世界の生乳生産量は、主要生産地域における乳牛頭数の減少と利益率の低下に制約されて、拡大基調が例年よりも緩やかに

になると予測され、貿易額は 2021 年の高水準から縮小する可能性がある。

- 2022 年の世界の砂糖生産は、インド、タイ、EU での増加により、3 年間の減少から増加に転じると予測される。
- 2022 年の水産・養殖業生産高は 2.9%増加し、捕獲漁業は 0.2%拡大すると予測される。魚の価格上昇を反映して、漁業および水産養殖製品の総輸出高は 2.8%増加すると予測されるが、数量は 1.9%減少するものと見られる。
- 食料価格の高騰は、通常、生産者にとっては農作物の利益が増加するため好材料となる。しかし、エネルギーコストの上昇や肥料の輸出制限などに伴うコストの急上昇は、それを相殺して余りあるものであり、長期化すれば、供給への対応に懸念が生じる。農家は資材の使用量を減らしたり、よりコストの低い作物に切り替えたりするかもしれない。そうなれば生産性が低下するだけでなく、主要食料の国際市場への輸出にマイナスの影響を与え、輸入への依存度が高い国が直面する負担をさらに増大させることになる。例えば北米の一部の農家はトウモロコシから、窒素肥料をあまり必要としない大豆に移行している。

FAO「食料アウトルック」とは

年に 2 回発行され、穀物、植物油、砂糖、肉、乳製品、魚など、世界の主要な食料品の市場需給の動向を FAO が検証している。また、食料品の先物市場や輸送コストの動向についても言及している。

参考資料:

(*1)<https://www.fao.org/3/cb9427en/cb9427en.pdf> Food Outlook. June 2022. Food and

Agriculture Organization of the United Nations.

(*2)<https://www.fao.org/newsroom/detail/news-un-food-outlook-report-world-s-most-vulnerable-are-paying-more-for-less-food/en>

World's most vulnerable are paying more for less food. Food and Agriculture Organization of the United Nations.

(資料閲覧:2022 年 6 月 10 日)

(Jミルク 国際グループ)